

B宮城県コース；「現地を訪問して想うこと」

匿名希望

私が立命館大学を卒業してから約30年が経ちましたが、今回初めて校友会の取り組みに参加させていただきました。

実は、昨年このツアーの案内チラシを拝見した時に、「参加して今の本当の状況を知りたい。何か自分に出来ることがないか探したい。」と思っていたのですが、ぐずぐず考えているうちに申込期限が過ぎてしまったという経過もあり、今回は案内をいただいてからすぐに応募しました。

東日本大震災後、私は様々な機会での募金やチャリティコンサートの協力くらいしかできませんでしたが、現地へ行くことによって「何か自分にもできることがあるのではないか…」という思いを抱きながら今回のツアーにひとりで参加しました。

バスでまだ傷跡の残っている被災地の南三陸町を案内していただきながら、語り部さんのお話を伺い、更に防災庁舎の慰霊塔を参拝させていただいて、何とも言えない複雑な思いがこみ上げてきました。

南三陸プラザでの被災地学習での勉強会では、震災の前後の写真を見て、改めて被害の大きさ、悲惨さを目の当たりにしました。けれども、南三陸ホテル観洋の女将阿部憲子さんのお話の中で、「被災地に『行きにくい』『行ってはいけない』という声も聞こえてくるけれど、来ていただければ被災地は元気になるし、被災地観光は決して『不謹慎』ではない。当事者の声は届きにくいけれど、みなさんが現地で見たいもの、感じたことを地元に戻って周りの人に伝えてもらいたい」と、そして「1000年に一度の大災害は、1000年に一度の学びの場」だとおっしゃっていたことが心に響きました。

また、校友の佐々木夫妻から経営されている笹かま工場の再起に向けた前向きなお話を伺い、更に翌日に閑上さいかい市場のお店にも伺うことができ、心から今後も応援していきたいという気持ちになりました。

今回このツアーに参加させていただいたことで、初めて出会った校友の皆さんと一緒にとても貴重な時間を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今まで疎遠になっていた校友会の存在、そしてその素晴らしさについても改めて見直す機会にもなりました。本当にありがとうございました。

これからも、自分にできることを探しながら、東北を応援し続けていきたいと思えます。